



【5月10日 03時52分更新】

ホットニュース

## 馬次期総統の親日姿勢評価 李登輝台湾前総統

【台北9日 = 正札武晴】台湾前総統の李登輝氏が九日、台北県淡水の台湾総合研究院で北國新聞社の取材に応じ、八年ぶりに政権を握る国民党の馬英九次期総統が親日ぶりをアピールしていることについて「日本のことを知りたいなら喜んで世話をする」と述べ、新政権での日台関係発展に協力する姿勢を示した。今年九月か十月に、金沢学院大で「日本人の精神」をテーマに講演する意向も示した。



「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」のメンバーと握手する李登輝前総統(右) = 台北県淡水の台湾総合研究院

二十日の馬総統就任により、国民党が総統職と立法院(国会)議員の大多数を手にする「一党支配」の状態となる。李氏は、独裁的な政府に陥るとの見方を否定し、一党支配で「かえって民主化はやりやすくなる」と指摘。ねじれ状態にない安定的な政権で民主化をさらに進めるべきだとの考えを示した。

「反日」のイメージが強かった馬氏が八日、日本統治時代の台湾で烏山頭ダムなどの一大水利事業を完成させた金沢市出身の八田與一技師の墓前祭に参列したことは、「並大抵のことではない」と評価し、親日へと態度を軟化させたことを歓迎した。

本社の取材に先立ち、「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」(金沢市)の訪台に同行している金沢学院大の石田寛人学長が、李氏に同大での講演を依頼し、李氏は「承知しました」と応じた。

講演の時期は「もみじのころ、九月か十月」とし、昨年に続くライフワークの「奥の細道」

をめぐる旅の途中に、金沢へ立ち寄るとした。李氏の県内訪問は、二〇〇四（平成十六）年以來、二度目となる。

李登輝氏との質疑応答の主な内容は次の通り。

馬次期総統で日台の親善は進むのか。親善のために李氏が協力する考えは。

馬氏は当選後、私の家に来た。私に言わせれば、馬氏は日本のことをあまり勉強していないし、よく知らない。日本のことで話を聞きたい、何か知りたいなら、私は喜んで世話をしますと言った。ただ、具体的にどうするかは言っていない。こんな高齢で大使や何かの役職に就くことはない。

馬新政権で台湾の民主化はさらに進むのか。

総統は国民党の馬氏になり、立法院（国会）も（今年一月の選挙で）国民党が大勢を占めた。馬氏が日本嫌いで、国民党の独裁的政府になると心配する人には、こう言っている。私が国民党の総統時、立法院は大多数が同党議員だったが、（独裁でなく）かえって民主化を進めやすかった。（同じ状況になる）馬氏は台湾のため一生懸命やろうと考えれば、かえって民主化はやりやすい。馬氏には日本との関係、アジアとの関係をしっかりやれと話した。

馬氏への評価は。

この人は割と正直でクリーンだ。彼が烏山頭ダムに出向き、八田技師の墓前祭に参列したのは、並大抵のことじゃない。私の本にある、八田さんの「日本人の精神」を読んだのかもしれない。馬氏をあまり変な偏見で見えてはいけない。

福田康夫首相の支持率が低下している。今の日本の政治をどうみるか。

今の日本の指導者は、もう少し強くやらないと。弱々しい格好では、人民は歯がゆくてしょうがない。

「奥の細道」をたどる今年秋の訪日では、昨年が続いて、実兄が祭られている靖国神社を参拝するか。

今年の訪日での参拝は無理でないか。何とも言えない。

<http://www.hokkoku.co.jp/news/HT20080510401.htm>